

## 『日本経済のパーズペクティブ』 構造と変動のメカニズム

脇田 成著 (首都大学東京教授)



有斐閣 2625円

7年近くに及んだ景気拡大は、昨年末に終焉を迎えたと見られる。この間、実質ベースで輸出は1.8倍と大幅に増加したが、国内需要はわずか1.1倍にとどまった。

国内需要のうち、設備投資は1.3倍と健闘したが、個人消費は1.1倍と回復が遅れた。好調な輸出が企業業績改善と設備投資拡大をもたらしたが、個人消費に回復が及ぶ前に、今回も景気拡大が終わった。個人消費が牽引する景気回復はあ

り得ないのだろうか。不適切な政策で個人消費の足を引っ張ることはなかったか。

本書は、新古典派の立場から、バブル崩壊後の「マクロの変動

に答えてくれる。

適切な経済政策とはどのようなものか。われわれは経済政策の目標として、高い成長率を掲げる。しかし、高い成長率を目指すのは、それが個人消費の持続的な増大につながる

と考えるためである。経済政策で設備投資を刺激し、

## 平易な説明と多数のグラフで 日本経済の全体像をとらえる

◎評者 河野龍太郎 (BNPパリバ証券経済調査本部長)

「メカニズム」と「ミクロの構造」を論じた日本経済論である。著者はマクロ経済学と労働経済学の専門家で、平易な説明と多数のグラフによって、読者の疑問

を一時的に成長率を高めても、投資の果実が消費の持続的増大につながるなければ、適切な政策とは言えない。

バブル崩壊後、成長率の低下

## 『イケアの挑戦』 創業者イングヴァル・カンプラードは語る

バツテイル・トールレクル著 (スウェーデンの作家ジャーナリスト)

楠野透子訳



ノルディック出版 2500円

世界最大の家具小売りチェーンであるスウェーデン企業・イケアが日本に再上陸して2年。

すでに関東、関西に2つずつ巨大店舗を構え、11月には埼玉、三郷市に5店舗目を開店予定

82店舗、従業員は11万8000人に達する。本書は、創業者であるイング

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

を避けるために大規模な財政政策が発動され、設備投資の刺激が試みられた。しかし、政策によって促されたのは低い収益率の投資ばかりで、結果的に生産性上昇率は低下し、消費水準の向上につながらなかった。超低金利政策も低生産性部門の投資を促し、「失われた10年」の最大の原因である不良債権問題をこじらせた可能性が高いと著者は言う。しかも、それらの政策は家計部門が得られるはずの利子所得を犠牲にして行われた。

小泉改革によって、不良債権問題はようやく解決した。しかし、その後も超低金利政策継続による金利負担軽減など企業部

門を優先し、家計の消費水準を高めるといふ発想は欠落したままである。また、民間部門では一種の「合成の誤謬」が生じていると指摘する。非正規雇用の増大は、個々の企業にとって人件費抑制・業績改善につながる。しかし、それは同時に日本の雇用システムが持つ「保険機能」の対象から外れる勤労者の増加を意味する。つまり、家計部門の所得が抑制され、個人消費ひいては日本経済の持続的な回復を阻害すると言っているのである。

議論が分かれる点もあるが、興味深い論考が展開されている。日本経済の全体像をとらえるための格好の1冊である。

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

と、快進撃を見せている。1年間のグループ売り上げは198億<sup>円</sup> (約3兆3500億円)で、36カ国2

## おすすめミステリ

### アメリカの『暁』時代に 挑んだ力作の圧倒的快感

デニス・ルヘインの新作『運命の日(上・下)』(早川書房、各1890円)は、一大スケールの歴史大作。いかにもハリウッド映画の華やかな原作にふさわしい。

舞台は、第1次世界大戦終結直後のボストン。アメリカ

家に生まれながら反抗心のままに運命を狂わせるダニー。



さき野崎 (作家・評論家)

史上もつとも多く労働者のストライキ闘争とストライキ妨害の血が流された時期。ボストン市警による警官ストライキという史実をふまえた。

アイランド移民の警官の

家に生まれながら反抗心のままに運命を狂わせるダニー。

ヴァル・カンプラードが初めて自らの言葉でイケアの歴史を語ったもので、17カ国語に翻訳されて世界中で読まれている。カンプラードは1986年に社長の座を退いたが、82歳の今でも経営の実権を握り、その哲学は会社の隅々に浸透している。

評者はイケアが世界的に成功した理由は、①低コストを徹底追求する

「ケチケチ精神」、②北欧・スウェーデンならではのデザイン力、③非市場を続け、自らの利益のみを財源とする脱金融の経営モデル——にあると考える。

これ以外にも創業者の言葉の端々に、この企業の強さの秘密がうかがえる。

イケアは母国スウェーデンでは経済・経営学を学ぶ学生の就

職先として6年連続で人気ナンバーワンになっている。なぜ優秀な人材を引き寄せられるのか。カンプラードは「個人が責任を持ち、仕事に意味を見出し、斬新な思いつきを実行に移し、キャリアアップする可能性を提供するから」と答えている。

◎評者 川崎一彦 (東海大学国際文化学部教授)

## スウェーデンの家具王が語る

### 経営哲学とライフスタイル

イケアはまた、オランダ籍の非営利財団が、株式非公開の持ち株会社を保有するなどの複雑な企業構造を築き、節税に努めてきた。ところが、当のカンプラードの生活は質素で、決して「金の亡者」ではない。アメリカ的な弱肉強食の資本主義を「二度も好きになれなかった」

と述懐し、実はスウェーデン社会民主党が唱える北欧型福祉社会の理念を支持してきたのだと、意外な一面ものぞかせる。

イケアは日本の第1号店の開店の際、「家庭と仕事、どっちが大切？」などのメッセージを広告で展開した。これには日本人のライフスタイルに挑戦するという意味が込められていた。この点からも、家具という商品を通じ、スウェーデン的な価値観を売る企業だと言っていいかもしれない。

カンプラードというユニークな人物の起業家精神や経営哲学を知りたい方、そして家庭を中心とする北欧的ライフスタイルや、モチベーションに焦点を当てた就業スタイルに関心をお持ちの方にもお薦めの1冊だ。

故郷の南部で事件を起こし逃げてきた黒人ルーサー。主人公は2人だ。そこに、アメリカ野球の大スター選手ベール・ルースの挿話が、巧みに配されている。

1910年代末。暴力と裏切りの交差するこの時代の歴史書にもあまり照らされな。そこに挑んだ力作の量感は圧倒的だ。文句なく、「ミステック・リバー」の作者の代表作。「新しい時代」の到来を告げるラストは、歴史観としてはいろいろ注文をつけたくなるだろうが、長大で陰鬱な小説の最後を飾る救いかもしれない。

映画化はマーティン・スコセッシかと思ったら、サム・ライミだという。こちらも期待しましょう。

もう1点、現代史に取材した犯罪小説を。エース・アトキンス『ホワイト・シャドウ』（ランダムハウス講談社文庫、998円）。

こちらの舞台は、キューバ革命前夜のフロリダとハバナ。ギャング、警察、革命家、ジャーナリストが入り乱れ、若き日の「フィデル」は実在の人物もそこにはめこまれる。近接する作品も多い。アメリカン・ノワールお好みの題材といえる。現実の迷宮入り事件の解釈など、読みごたえは十分だ。

2作とも、ジェイムズ・エルロイ調の暗黒歴史ものファン向き。エルロイほどの歪曲や毒は含まれていないから、ご安心を。

※この欄は「末國善己の時代小説」と隔週交代で掲載します。